

泉大津市文化財調査報告34

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報20

2002・3

泉大津市教育委員会



泉大津市文化財調査報告34

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報20

2002・3

泉大津市教育委員会

例 言

1. 本調査概報は、泉大津市教育委員会が、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地内において、開発行為に先立って実施した発掘調査報告である。
2. 本調査は、国庫補助事業（補助対象経費1,000,000円、国庫補助率50%、市負担率50%）として、泉大津市が計画・実施したものである。
3. 本調査は下記の構成で実施した。

調査主体者	泉大津市教育委員会教育長	楠畑 正史
事務局	泉大津市教育委員会事務局	生涯学習課
担当者	坂口 昌男	
	虎間 麻実	
	村田 文幸	
調査員	酒井 祐介	
	松川 由次	
調査補助員	小林 和夫	
	石松 直	
	小川 輝	
	楠本 英隆	
	野田 由恵	
4. 本事業は、平成13年度事業として、平成13年4月1日に着手して、平成14年3月31日に完了した。
5. 本書の執筆は酒井、虎間が、編集は酒井、虎間、村田が行った。各地点の文責は末尾に記した。
6. 本調査にあたり、株式会社 総合文化企画 の協力を得た。

目 次

第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況	1
1. 泉大津市の位置と環境	1
2. 埋蔵文化財調査の現状	3
第2章 発掘調査成果	5
1. 池上曾根遺跡	5
2. 池浦遺跡	8
3. 板原遺跡	13
4. 虫取遺跡	15
5. 東雲遺跡	23
6. 大岡遺跡	25
発掘調査抄録	28
挿 表	
表1 発掘調査一覧表	4
挿 図	
第1図 泉大津市の位置	1
第2図 遺跡分布図	2
第3図 遺跡別工事内容内訳	3
第4図 池上曾根遺跡 調査区位置図(1:10,000)	5
第5図 2001-06地点トレンチ写真	6
第6図 2001-06地点北壁断面写真	6
第7図 2001-06地点断面図	6
第8図 2001-08地点トレンチ写真	7
第9図 2001-08地点西壁断面写真	7
第10図 2001-08地点北壁断面図	7
第11図 池浦遺跡 調査区位置図(1:10,000)	8
第12図 2001-03地点トレンチ写真	9
第13図 2001-03地点東壁断面写真	9
第14図 2001-03地点東壁断面図	9
第15図 2001-07地点トレンチ写真	10
第16図 2001-07地点断面写真	10
第17図 2001-07地点断面図	10
第18図 2001-11地点トレンチ写真	11
第19図 2001-11地点断面写真	11
第20図 2001-11地点断面図	11
第21図 2002-01地点トレンチ写真	12
第22図 2002-01地点断面写真	12

第23図	2002-01地点断面図	12
第24図	板原遺跡 調査区位置図(1:10,000)	13
第25図	2001-05地点第1トレンチ写真	14
第26図	2001-05地点第1トレンチ断面写真	14
第27図	2001-05地点第2トレンチ写真	14
第28図	2001-05地点第2トレンチ断面写真	14
第29図	2001-05地点第1トレンチ断面図	14
第30図	2001-05地点第2トレンチ断面図	14
第31図	2001-12地点トレンチ写真	15
第32図	2001-12地点断面写真	15
第33図	虫取遺跡 調査区位置図(1:10,000)	16
第34図	2001-02地点トレンチ写真	16
第35図	2001-02地点断面写真	16
第36図	2001-02地点南壁断面図	17
第37図	2001-04地点検出遺構平面図	18
第38図	2001-04地点トレンチ写真	19
第39図	2001-04地点トレンチ断面写真	19
第40図	2001-04地点トレンチ東壁断面図	20
第41図	2001-04地点拡張区南壁断面図	20
第42図	2001-04地点溝2写真	21
第43図	2001-04地点拡張区全体写真	21
第44図	2001-04地点拡張区井戸1羽釜検出状況写真	21
第45図	2001-04地点拡張区井戸1羽釜検出状況写真	21
第46図	2001-04地点拡張区井戸1平面・立面図	22
第47図	2001-04地点出土遺物写真	22
第48図	2001-04地点出土遺物実測図	23
第49図	東雲遺跡 調査区位置図(1:10,000)	24
第50図	2001-09地点トレンチ写真	24
第51図	2001-09地点断面写真	24
第52図	2001-09地点断面図	25
第53図	大岡遺跡 調査区位置図(1:10,000)	25
第54図	2001-10地点第1トレンチ写真	26
第55図	2001-10地点第1トレンチ断面写真	26
第56図	2001-10地点11石器グリッド写真	26
第57図	2001-10地点第2トレンチ写真	27
第58図	2001-10地点第2トレンチ断面写真	27
第59図	2001-10地点第1・第2トレンチ断面図	27

第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況

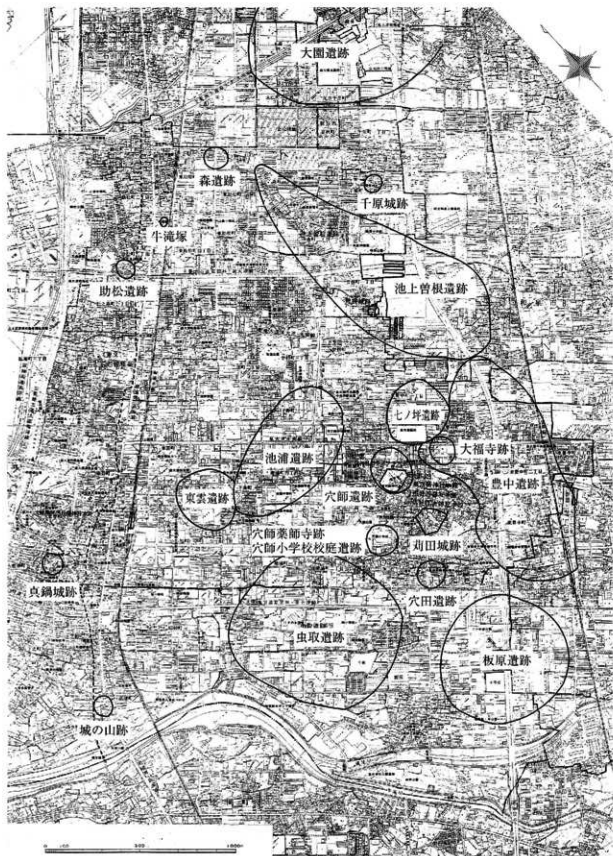
1. 泉大津市の位置と環境

泉大津市は大阪府南部の泉州地域に属する。泉州地域東部には、大阪湾に沿って東西に和泉山脈が連なる。その山脈を源として幾多の河川が北に走行し、大阪湾に注ぐ。これらの河川はそれぞれ開析谷、河岸段丘を形成し、その両側には丘陵地形が南北方向に発達している。その丘陵より北側は平坦で狭小な沖積地が形成されているが、泉大津市はこの沖積地上に立地しており、市域の標高は20m未満である。

泉大津市は面積12.32Km²、人口77,408人である（平成14年2月1日現在）。昭和40年頃から開発が進み、現在は市域全域が市街地化されている。市域は、大阪湾に面した臨海部の工業地域、南海本線から阪和線にかけての住居地域と商工業地域が混在する地域、国道26号線周辺の商業地域に大きく分けることができる。住居地域には、助松の紀州街道沿いと泉穴師神社周辺にそれぞれ風致地区を設けている。近年の開発における市域の環境は、臨海部及び南海本線沿線で大きな変化が認められる。臨海部では、新たな住居地域としてのマンション建設が進み、松之浜駅周辺では、駅東地区再開発ビルの建設が行われた。平成5年のバブル景気崩壊以後、大規模開発は下火になっているものの、繊維工場跡地での分譲住宅建設や木造個人住宅の鉄筋造への立替えなど、景観の変化は著しい。



第1図 泉大津市の位置



第2図 遺跡分布図

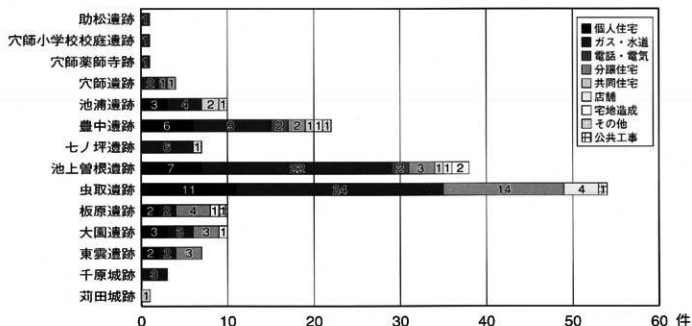
2. 埋蔵文化財調査の現状

本概報は、平成13年2月～平成14年1月までに届け出があったものを主な対象とする。当該期間内の埋蔵文化財届出件数は169件である。届出件数は平成11年度が250件、平成12年度が198件であり、ここ数年減少傾向にある。

第3図は、遺跡別工事件数の内訳である。遺跡別に届出件数をみると、虫取遺跡、池上曾根遺跡、豊中遺跡の順が多い。

総届出件数に占める工事内容は、ガス・水道・電気・電話を含む個人住宅関連工事が約7割を占めている。次いで分譲住宅・店舗・共同住宅の順に件数が多かった。

本概報で報告する調査は、池上曾根遺跡2件、池浦遺跡4件、板原遺跡2件、虫取遺跡2件、東雲遺跡1件、大園遺跡1件の合計12件である。いずれも建物基礎掘削深度が遺構面を損壊するため、着工前の確認調査を行ったものである。但し、全面発掘調査に至ったものはない。



第3図 遺跡別工事内容内訳

表1 発掘調査一覧表

○池上曾根遺跡

調査番号	所在地	用途	申請面積
2001-06	森町2丁目227番93, 92の一部	鉄骨造3階建 個人住宅	73.95㎡
2001-08	森町2丁目228番14	木造2階建 個人住宅	192.03㎡

○池浦遺跡

調査番号	所在地	用途	申請面積
2001-03	下条町614番82	鉄骨造3階建 個人住宅	141.92㎡
2001-07	寿町366番1の一部	鉄骨造3階建 共同住宅	494.25㎡
2001-11	池浦町4丁目232番7	鉄骨造3階建 病院	359.75㎡
2002-01	池浦町5丁目207番1, 208番1	鉄骨造5階建 共同住宅	944.62㎡

○板原遺跡

調査番号	所在地	用途	申請面積
2001-05	板原128番1	鉄骨造4階建 共同住宅	1146.58㎡
2001-12	穴田73番5	鉄骨造1階建 店舗	298.61㎡

○虫取遺跡

調査番号	所在地	用途	申請面積
2001-02	宇多1048番72	鉄骨造2階建 個人住宅	208.43㎡
2001-04	池浦町2丁目575番1, 573番1の各一部	木造2階建 分譲住宅	816.3㎡

○東雲遺跡

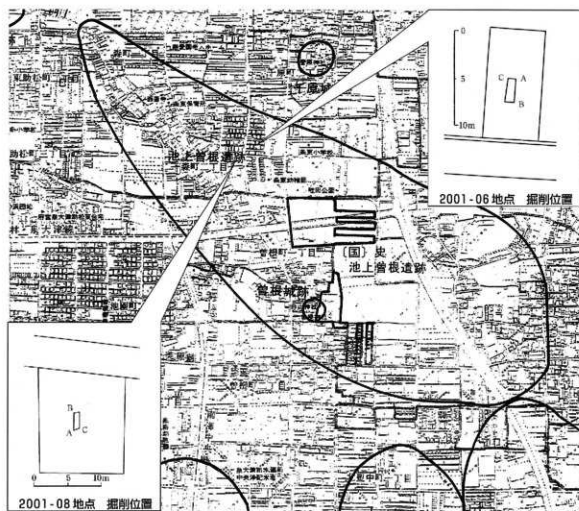
調査番号	所在地	用途	申請面積
2001-09	旭町167番1, 167番3	木造1階建 個人住宅増築	1067.28㎡

○大圃遺跡

調査番号	所在地	用途	申請面積
2001-10	綾井50番1, 51番1、葛の葉町243番3, 808番2	鉄骨造2階建 店舗	1416.61㎡

第2章 発掘調査成果

1. 池上曾根遺跡



第5図 池上曾根遺跡 調査区位置図(1:10,000)

池上曾根遺跡は本市曾根町と和泉市池上町に広がり、遺跡範囲約105ヘクタールのうち、約11.5ヘクタールが史跡に指定されている。本市域における遺跡の範囲は、曾根神社以西から森町、千原町の一部を含み、南北に広がりを持つ。史跡指定地以外の地域は、旧村落と昭和40年代以降の開発部分が混在しており、小区画の開発が多く大規模な調査は行われていない。そのため、史跡地中心部の構造に比べ、周辺部は不明な点が多い。今年度は個人住宅の建設に先立ち、2件の確認調査を実施した。

2001-06地点

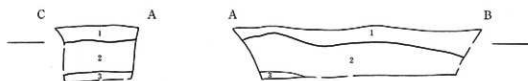
個人住宅建設部分の敷地中央に幅1m、長さ2.5mのトレンチを設定し、重機で掘削を行った。盛土直下で地山を検出し、その面では遺構が検出されなかったので基盤層まで掘り下げた。基本層序は上層から盛土、地山（黄灰色砂礫土）、基盤層（黄灰褐色砂礫土）である。遺構・遺物の検出はなかった。宅地造成によって大幅に削平されているものと思われる。写真撮影、図面作成を行い、調査を終了した。（酒井）



第5図 2001-06地点トレンチ写真



第6図 2001-06地点北壁断面写真



層位名

1. 盛土
2. 黄灰色砂礫土（乳白色粘土のブロックを含む）地山
3. 黄灰褐色砂礫土（茶褐色粘土のブロックを含む）地山（基盤層）



第7図 2001-06地点断面図

2001-08地点

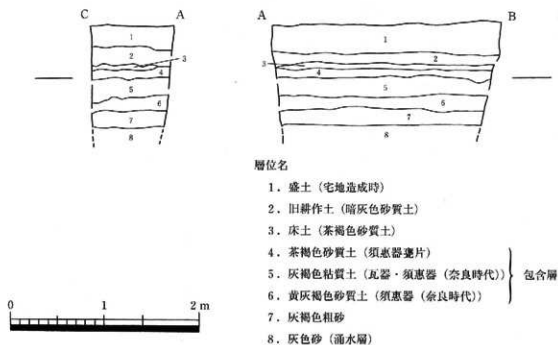
個人住宅建設部分の敷地中央に幅90cm、長さ2.4mのトレンチを設定し、重機で掘削を行った。現地表面から1mでベースとなりうる7層を検出、遺構が検出されなかったので8層上面まで掘り下げた。基本層序は上層から盛土、旧耕作土（暗灰色砂質土）、床土（茶褐色砂質土）、茶褐色砂質土、灰褐色粘質土、黄灰褐色砂質土、灰褐色粗砂、灰色砂である。4、5、6層は包含層で、奈良時代の須恵器小片、瓦器塊小片等を包含するが遺構面としてとらえることはできない。中世頃に形成された包含層と思われる。ベースとなりうる7層、涌水層である8層は旧流路もしくはそれに伴う氾濫原の堆



第8図 2001-08地点トレンチ写真



第9図 2001-08地点西壁断面写真

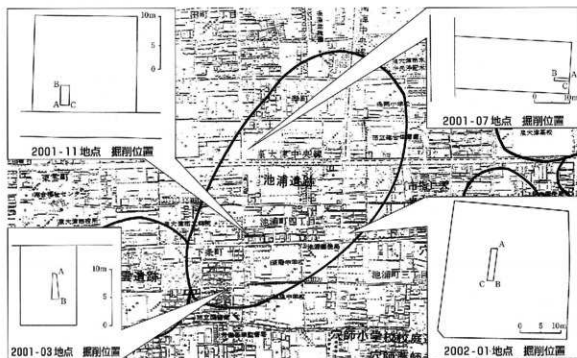


第10図 2001-08地点北壁断面図

積と思われる。出土遺物は4層から6世紀前半頃の須恵器甕の体部片、5層からは奈良時代の須恵器坏蓋、瓦器碗片、6層からはMT15型式の須恵器坏蓋、奈良時代の須恵器坏身が出土しているが、いずれも小片のため図化し得なかった。遺構は検出されなかったが、6世紀前半段階、奈良時代、中世の各時期の遺構が付近に存在する可能性がある。写真撮影、図面作成を行い、調査を終了した。

(酒井)

2. 池浦遺跡



第11図 池浦遺跡 調査区位置図(1:10,000)

池浦遺跡は、弥生時代前期中段階に始まる泉州地域で最も古い弥生集落として知られている。市のほぼ中央部に位置し、遺跡の中心部は市立病院付近であると推測される。池上曽根遺跡との関わりを考察する上で重要な遺跡であるが、昭和60年代以降大規模な開発がほとんどみられないことなどから、近年の調査は確認調査にとどまっている。今年度は個人住宅・共同住宅・病院の建設に先立ち、4件の調査を実施した。

2001-03 地点

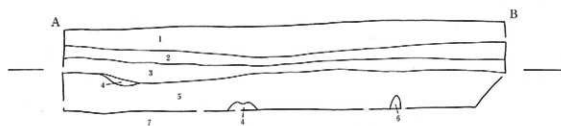
個人住宅建設部分に、幅0.7～1.3 m、長さ4.7 mのトレンチを設定し、重機により掘削を行い、人力により床面及び壁面の精査を行った。1層～3層は現地表土、旧盛土、旧耕作土である。4層は灰色粘質土、5層は青灰色砂でブロック状に6層（黒灰色粘質土）が混じる。7層は灰色砂礫で直径3～5 cmの円礫を多数含み、涌水が非常に激しく認められる。遺構・遺物は認められないので、写真撮影、図面作成を行い、調査を終了した。（虎間）



第12図 2001-03 地点トレンチ写真



第13図 2001-03 地点東壁断面写真



層位名

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1. 現地表土 | 5. 青灰色砂 |
| 2. 旧盛土（青灰色シルト） | 6. 黒灰色粘質土 |
| 3. 旧耕作土（暗灰色粘質土） | 7. 灰色砂礫 |
| 4. 灰色粘質土 | |



第14図 2001-03 地点東壁断面図

2001-07地点

共同住宅建設部分の敷地内の基礎が及ぶ部分に幅90cm長さ4.3mのトレンチを設定し、重機で掘削を行った。現地表面から約80cmでベースである黄灰色粘質土の地山を検出した。基本層序は上層から耕作土（暗灰色粘質土）、灰色砂礫土、黄褐色粘質土、茶褐色粘質土、地山（黄灰色粘質土）である。6層は地震痕跡である噴砂で、地山である5層の下層砂層（下層確認で灰色細砂と確認）の液状化現象に伴うものと考えられる。噴砂は、3、4、5層形成後、2層形成以前に起こった地震に起因する痕跡と思われる。遺物・遺構の検出がなかったため、周期的に発生している南海地震のどのサイクルと一致するかは不明である。各層とも遺物を一切包含していない。写真撮影、図面作成を行い、調査を終了した。

(酒井)



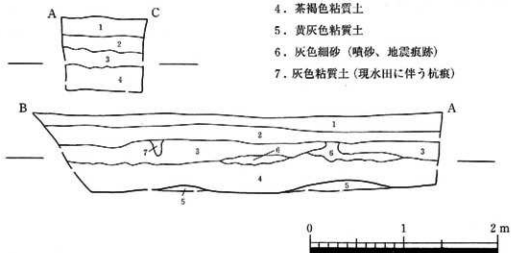
第15図 2001-07地点トレンチ写真



第16図 2001-07地点断面写真

層位名

1. 耕作土（暗灰色粘質土）
2. 灰色砂礫土
3. 黄褐色粘質土
4. 茶褐色粘質土
5. 黄灰色粘質土
6. 灰色細砂（噴砂、地震痕跡）
7. 灰色粘質土（現水田に伴う杭痕）



第17図 2001-07地点断面図

2001-11地点

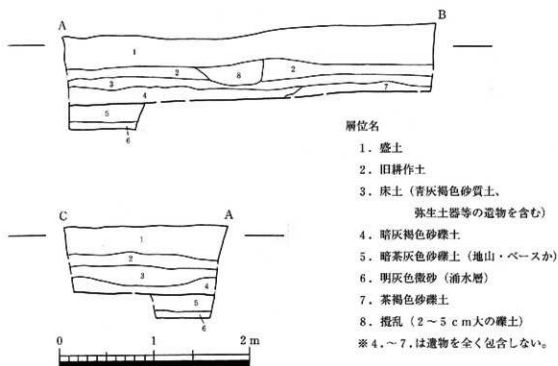
病院建設部分の敷地内の基礎が及ぶ部分に幅1.7m、長さ3.9mのトレンチを設定し、重機で掘削を行った。現地表面から70cmで地山を検出した。基本層序は上層から盛土、旧耕作土（暗灰色砂質土）、床土（青灰褐色砂質土）、暗灰褐色砂礫土、地山（暗茶灰色砂礫土、明灰色微砂）である。2層床土中にわずかにごく細片の弥生土器が包含されているが、他の各層からの遺物の検出はない。5層地山の上面が遺構面となり得たが、遺構の検出はできなかった。下層確認で検出した6層は湧水層で、有史以前の堆積と思われる。写真撮影、図面作成を行い、調査を終了した。（酒井）



第18図 2001-11地点トレンチ写真



第19図 2001-11地点断面写真



第20図 2001-11地点断面図

2002-01地点

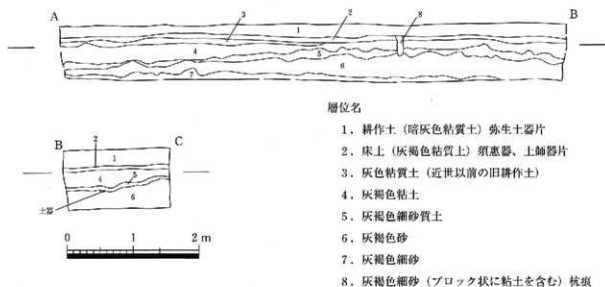
共同住宅建設部分の敷地内の中央に幅1.6m、長さ7.6mのトレンチを設定し、重機で掘削を行った。現地表面から80cmでベースとなる7層を検出した。基本層序は上層から耕作土(暗灰色粘質土)、床土(灰褐色粘質土)、近世以前の旧耕作土(灰色粘質土)、灰褐色粘土、灰褐色細砂質土、灰褐色砂、灰褐色細砂である。1層耕作土中に弥生土器小片、2層床土中に須恵器、土師器小片が含まれるが、遺構面になり得る層は存在しなかった。8層の杭痕は現水田に伴うものである。出土遺物は破片のため図化し得なかった。写真撮影、図面作成を行い、調査を終了した。(酒井)



第21図 2002-01地点トレンチ写真

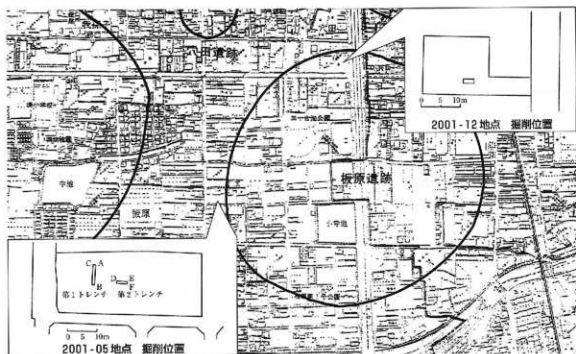


第22図 2002-01地点断面写真



第23図 2002-01地点断面図

3. 板原遺跡



第24図 板原遺跡 調査区位置図(1:10,000)

板原遺跡は、本市板原を中心とし、東南部では和泉市肥子町にまたがる遺跡である。国道26号線の整備に伴う調査により縄文時代の流路や鎌倉時代の掘立柱跡などを検出している。その後の調査では明確な遺構の検出はみられなかったが、今年度の調査で瓦器塊小片・羽釜小片の出土とともに、中世における耕作状況がうかがえる素掘小溝群が検出された。今年度は、共同住宅及び店舗建設に先立ち2件の確認調査を実施した。

2001-05地点

共同住宅建設部分の敷地内に東西方向と南北方向に2本のトレンチを設定し、東西方向を第1トレンチ、南北方向を第2トレンチとし、重機で掘削を行った。基本層序は第1トレンチ、第2トレンチ共に同一の堆積状況で上層から耕作土(暗灰色砂質土)、床土(明茶灰色砂質土、暗茶灰色砂質土)、明灰茶色砂質土、素掘小溝埋土(明灰色粘質土)、地山(黄灰色粘質土)、大阪層群基盤層(黄褐色粘質土、マンガン塊を多く含む)である。第1トレンチ、第2トレンチ共に6層地山をベースとした条里方向の素掘小溝群が検出された。第2トレンチではそれに伴うピット1を検出した。遺物は4層から須恵器小片、13世紀代と思われる瓦器塊、土師器皿、羽釜の破片が、5層素掘小溝埋土からは羽釜の破片と12世紀代と思われる瓦器塊が出土している。これらのことから検出された素掘小溝群は12世紀代～13世紀代頃の耕作痕と思われる、4層はそれらの耕作地の地目を何らかの形で変更した際の盛土と思われる。このような中世の段階での盛土は各地で見られるが、その目的は鳥畑との関連を含めて



第25図 2001-05 地点第1トレンチ写真



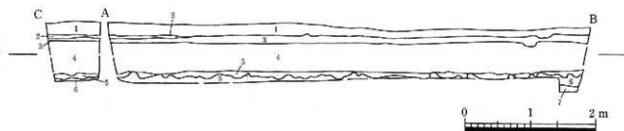
第26図 2001-05 地点第1トレンチ断面写真



第27図 2001-05 地点第2トレンチ写真



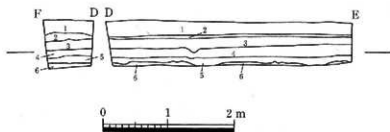
第28図 2001-05 地点第2トレンチ断面写真



第29図 2000-05 地点第1トレンチ断面図

層位名

1. 耕作土 (暗灰色砂質土)
2. 床上 (明茶灰色砂質土)
3. 暗茶灰色砂質土
(土師器等の細片をわずかに包含する)
4. 明茶灰色砂質土 やや粘質
(若干の小礫を含み、瓦器等の小片を包含する) 中世以降の盛土
5. 明灰色粘質土 (素掘小溝埋土) 中世
6. 黄灰色粘質土 (ベース遺構面・地山)
7. 黄褐色粘質土 (マンガン塊を多く含む)
基盤礫・大阪層群



第30図 2001-05 第2トレンチ断面図

検討の余地がある。4層の形成時期は13世紀代頃と考えられ、その時期に耕作地は変化したと思われる。耕作に伴う遺構以外のものは検出されなかったが、当地域における条里施行時期を知る上で重要な遺構である。出土遺物については細片のため図化し得なかった。写真撮影、図面作成を行い、調査を終了した。

(酒井)

2001-12地点

店舗建設部分の敷地内を重機で掘削したが、旧店舗のコンクリートを多量に含む残土による盛土が1.5 m以上あり、現地表面から1.7 mまで掘削したが、盛土以外の層は確認できなかった。基礎の及ぶ深度は1.5 mまでであるため、それ以上の掘削は行わず、写真撮影、平面図作成を行い、調査を終了した。

(酒井)



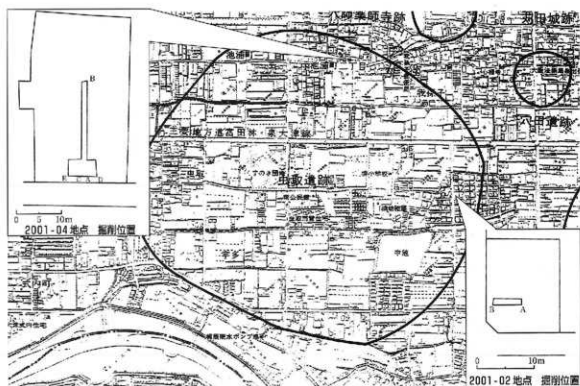
第31図 2001-12地点トレンチ写真



第32図 2001-12地点断面写真

4. 虫取遺跡

虫取遺跡は池上曾根遺跡に次ぐ面積を有する遺跡である。近年、宅地開発の増加が進む地域である。耕作地が多く残り、これまで顕著な遺構が認められない場合が多かったが、今年度の調査で、羽釜・瓦器碗等を伴った中世井戸や溝等の中世居館を思わせる遺構を検出し、調査の進展により新たな成果が期待できる遺跡である。今年度は個人住宅及び分譲住宅の建設に先立ち、2件の確認調査を実施した。



第33図 虫取遺跡 調査区位置図(1:10,000)

2001-02地点

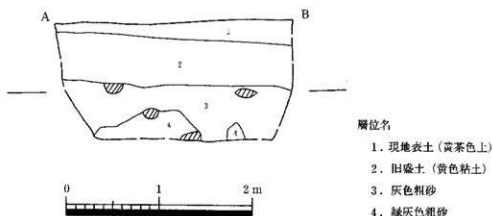
個人住宅建設部分に、幅1.7m、長さ2.5mのトレンチを設定し、重機により掘削を行い、人力により床面及び壁面の精査を行った。1層(黄茶色土)は現地表土、2層(黄色粘土)は、旧盛土で60~80cmの堆積があり宅地造成時のものである。3層(灰色粗砂)、4層(緑灰色粗砂)にも、ところどころアスファルトの塊を含む。2層と同時期に掘削されたものと思われる。遺構・遺物は認められないので、写真撮影、図面作成を行い、調査を終了した。(虎間)



第34図 2001-02地点トレンチ写真



第35図 2001-02地点断面写真



第36図 2001-02地点南壁断面図

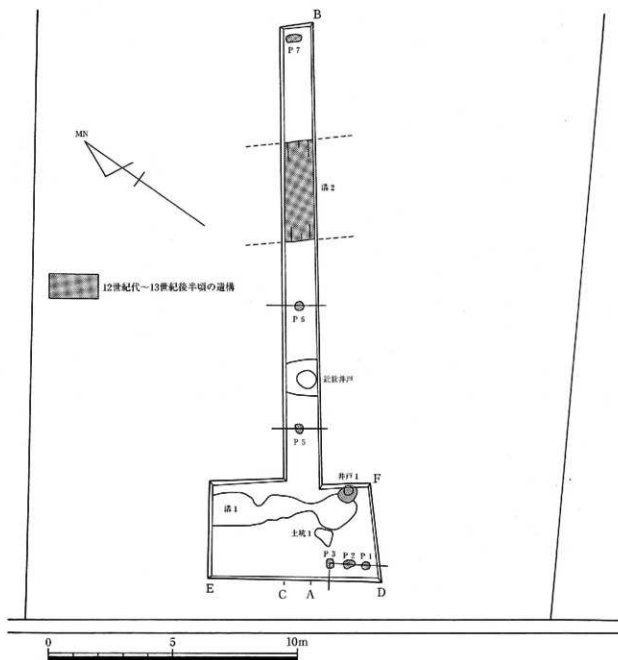
2001-04地点

給排水管埋設部分に幅1.2m、長さ22mのトレンチを設定し、重機によりベースと思われる面まで掘削後、人力によりベース及び壁面の精査を行った。ベースの7層（茶灰褐色砂礫土）上には3層の包含層が存在する。上層から3層（灰褐色砂質土、瓦器、土師器小片を含む）、4層（茶灰色砂質土、須臾器、瓦器、土師器小片を含む）、6層（茶灰色砂質土礫混じり、弥生土器、サスカイト剥片、瓦器、土師器を含む）となる。

トレンチ南西部では、溝1、トレンチ中央部では近世井戸、ビット、幅約4mの溝2を検出したため、トレンチ南端部分（トレンチを第37図の上部を便宜上北とした場合）を東西に拡張し、東側を拡張1区、西側を拡張2区とした。掘削は重機により6層上面まで掘削し、ベースである7層上面まで人力により掘削、ベース及び壁面の精査を行った。拡張1区ではビット3基、溝1の続き、土坑1を確認。拡張2区でも溝1の続きを検出した。トレンチ全体で確認した遺構は柱穴と思われるビット6基、井戸2基、溝2条、土坑1基である。

遺構については諸々の事情により掘削しない予定であったが、井戸1は土師器甕が露出した形となっていたため、掘削を行い、底部を打ち欠いた土師質羽釜の上に、口縁及び底部を打ち欠いた土師器甕を被せた転用枠を使用した井戸であることが判明した。枠内からは13世紀後半頃の瓦器碗のみが出土しており、羽釜の年代観もほぼ同時期と思われる。掘方内からは遺物の出土がなかった。

今回の調査では幅約4mで条里方向の溝2を検出しており、出土遺物から12世紀代～13世紀後半頃の時期が考えられ、井戸1もその時期内におさまることから溝2は、中世居館を囲む堀の可能性（13世紀中頃になると、中世居館は幅2m～5m程度の堀をもつようになる。（例）和泉市和気遺跡等）も考えられ、溝2の南側のビット群も、屋敷地内の建物に伴う柱穴とみることもできるが狭い調査区のため、あくまでも推定であり、また、一般の農村集落との差異も見い出していない。尚、すべてのビットの埋土上面で瓦器碗等の中世の遺物が確認でき、12世紀代～13世紀後半頃の柱穴と思われるが、掘削していないため、明確ではない。



第 37 図 2001 - 04 地点検出遺構平面図

中世以外の遺物としては、6層包含層中に中世遺物とともに弥生土器和泉Ⅲ～Ⅳ様式の広口壺、水差形土器、凸基有蓋式石甌、5世紀後半頃の須恵器甕の体部等が出土しているが、石甌以外については細片のため図化し得なかった。弥生～古墳時代の遺構に関しては中世の段階で削平されたものと思われるが、井戸1に切られた溝1は埋土も他の遺構と異なり、出土遺物からみて弥生～古墳時代の遺構の可能性がある。他の遺構については、盛土直下で検出した近世井戸以外は検出のみで掘削を行っていないため明確な時期決定はできない。

出土遺物は弥生時代から近世までの各時代の遺物があるが、図化し得たものが第48図である。1は井戸1枠内出土の和泉型瓦器碗である。口縁部の約 $1/2$ を欠く。口径は13.2cm、器高は3.75cmである。器高が低く扁平な形状を呈し、高台は痕跡をとどめる程度に雑に貼り付けている。内面見込みから体部にかけて渦巻状暗文を施す。胎土中には1mm程度の石英等の石粒を含む。2はトレンチ北東端30層直上出土の東播系（神出窯系と思われる）須恵器捏鉢である。口縁から体部にかけての破片である。

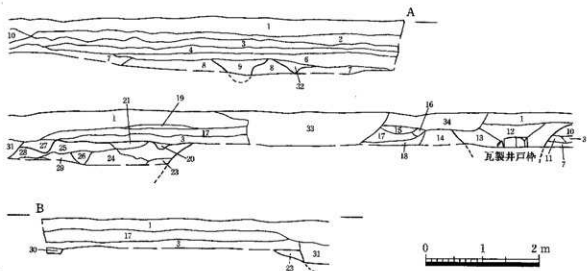
復元口径約25.6cm、残存高は4.0cmである。内外面ともにヨコナデ成形で、口縁端面は内傾し、端部を内側につまみ出している。胎土中には1mm～5mm程度の石英・チャート・長石等の石粒を含む。3は溝2、26層出土の瓦質摺鉢である。口縁から体部にかけての破片である。復元口径約32.8cm、残存高は6.1cmである。外面はヘラ状工具による粗いナデののち刷毛調整を行っている。内面はナデののち摺目をかきあげている。単位は7条1単位である。口縁端面はほぼ直立する。胎土中には1mm～2mm程度の石英・長石等の石粒を含む。4は溝2、26層出土の瓦質羽釜である。口縁から鈎部、体部にかけての破片である。口縁外面に3条の凹線を施す。内面は細かい刷毛調整、外面鈎部直下体部をケズリにて調整している。胎土中には1mm程度の石粒を含むが精良である。5は井戸1の枠に転用された土師質羽釜である。井戸枠転用のため底部を打ち欠いている。その他の欠損部分はない。口径28.6cm、残存高20.5cmである。体部外面は板状工具によるケズリの後ナデを行っている。口縁端部は擬口縁に粘土を継ぎ足し外反させつつ折り返している。胎土中には1mm～3mm程度の石英、長石等の石粒を含む。6は3層包含層出土の土甌である。両端部をわずかに欠損する。



第38図 2001-04地点トレンチ写真



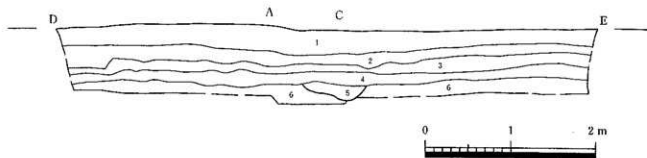
第39図 2001-04地点トレンチ断面写真



層位名

- | | |
|--|---|
| 1. 盛土 | 17. 暗灰色粗砂 (炭を多量に含むガラス等包含) |
| 2. 茶褐色砂礫土 | 18. 灰褐色微砂 |
| 3. 灰褐色砂質土 (瓦器輪・土師器の小片含む) | 19. 暗青灰色砂質土 |
| 4. 茶灰色砂質土 (瓦器輪・土師器の小片含む) | 20. 灰褐色粘質土 (礫混り炭を含む) |
| 5. 黄灰色褐色砂質土 (よくしまる) Pit状の遺構 | 21. 明灰色粘質土 |
| 6. 茶灰色砂質土 (礫混り、弥生土器・サヌカイト石礫含む) | 22. 暗灰色砂礫土 |
| 7. 茶灰褐色砂礫土 遺構面 | 23. 暗灰色微砂 |
| 8. 灰黄色粗砂礫混り | 24. 茶灰色砂質土 |
| 9. 黒灰色砂礫土 (溝1埋土) | 25. 茶褐色砂礫土 |
| 10. 茶褐色砂礫土 | 26. 青灰色砂礫土 |
| 11. 青灰褐色砂質土 | 27. 茶灰色粗砂 (炭をわずかに混る) |
| 12. 暗灰黄色砂礫土 (近世瓦等を含む枠内埋土) | 28. 暗青灰色砂礫土 |
| 13. 黄灰色粘質土
(暗灰色砂質土上のブロックを含む、井戸枠炭込土) | 29. 茶灰色砂質土 |
| 14. 灰褐色粘質土
(暗灰色粘質土ブロックを多く含む粗砂) | 30. 茶灰色礫混り粗砂 遺構面ベース |
| 15. 暗灰黄色砂質土 (炭混り) | 31. 暗灰色砂質土
(小礫混り、黄灰色粘質土上のブロック炭を混る近現代瓦) |
| 16. 黄灰褐色砂質土 | 32. 明茶灰色砂質土 (礫混り、土坑/埋土) |
| ※3, 4, 6層は包含層21~26, 28, 29は溝2埋土 | 33. 攪乱 |
| | 34. 攪乱 |

第40図 2001-04地点トレンチ東壁断面図

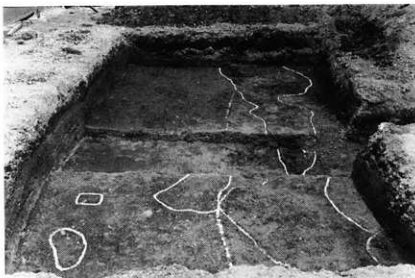


第41図 2001-04地点拡張区南壁断面図

橙色を呈し、胎土は精良である。7は6層包含層出土のサヌカイト製凸基有基式石鏃である。先端部をわずかに欠損する。残存長2.8cm、最大幅1.4cmである。剥片を利用し、主要剥離は行わず、押圧剥離による細部調整で刃部を作り出している。



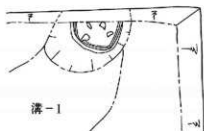
第42図 2001-04地点溝2写真



第43図 2001-04地点拡張区全体写真(上:東から 下:西から)



第44图 2001-04地点拡張区井戸1羽釜検出状況写真



溝-1



層位名

1. 灰色砂質土



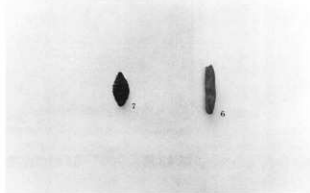
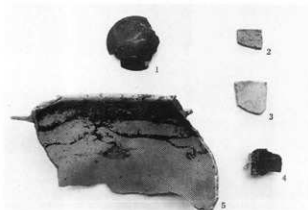
第46图 2001-04地点井戸1平面・立面図



第45图 2001-04地点拡張区井戸1羽釜検出状況写真

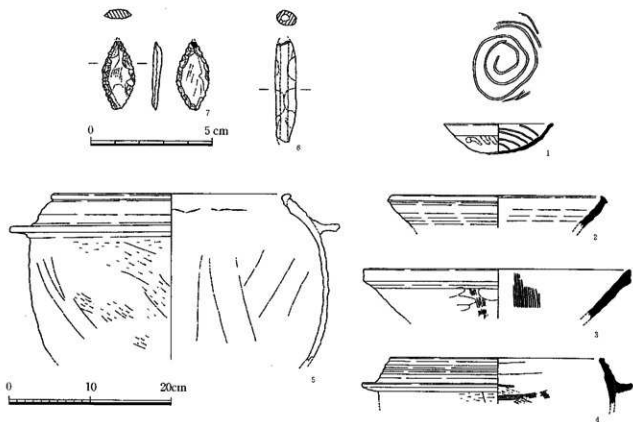


第47图 2001-04地点出土遺物写真



まとめ

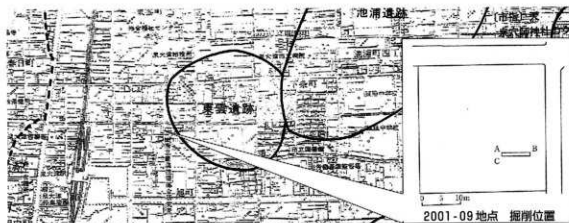
狭い調査区で、遺構掘削も行っていないため、明確な資料は得られなかったが、当遺跡において弥生～古墳時代の遺構だけではなく、中世においての集落が存在する可能性が出たという意味での成果は大きい。今後の調査において当該地周辺は注目する必要がある。(酒井)



第48図 2001-04地点出土遺物実測図

5. 東雲遺跡

東雲遺跡はその中心部が南海本線泉大津駅の東約400mの地点付近に位置する。昭和52年の調査で古墳時代前期の竪穴住居址・井戸・溝や中世の掘立柱穴等の遺構が検出されたが、その後の調査では特筆すべき遺構の検出はみられない。遺跡地内は市街地化が進み例年届出件数も少ないため、調査機会の少ない遺跡である。今年度は7件の届出があり、個人住宅増築に先立ち確認調査1件を実施した。



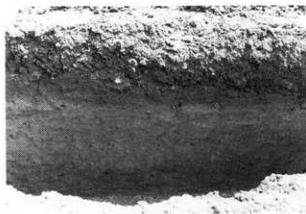
第49図 東雲遺跡 調査区位置図(1:10,000)

2001-09地点

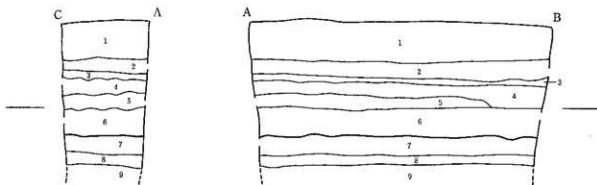
個人住宅増築部分の敷地内に幅90cm、長さ3.2mのトレンチを設定し、重機で掘削を行った。基本層序は上層から盛土、旧耕作土（暗灰色砂質土）、床土（明黄褐色砂質土）、明黄灰色砂質土、明黄灰色粘質土、黄灰褐色砂質土、茶灰色砂質土、茶褐色砂質土、暗褐色砂礫土である。遺物は3層床土に土師器破片、4、5層に土師器細片、6層に瓦器碗、羽釜の破片が含まれる。7、8、9層は全く遺物を包含していない。4、5、6層は中世頃の包含層で、7層は中世頃の遺構面となりうる可能性があるが、遺構・遺物は検出されなかった。9層上面から湧水が激しく、遺物も包含しないことからそれ以上の掘削は行わなかった。7層については面的に広げれば、遺構が検出される可能性があると思われる。出土遺物については破片のため図化し得るものがなかった。写真撮影、図面作成を行い、調査を終了した。（酒井）



第50図 2001-09地点トレンチ写真

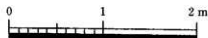


第51図 2001-09地点断面写真



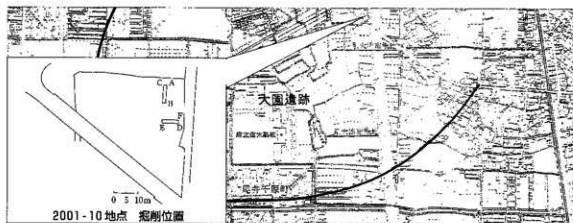
層位名

1. 盛土
2. 旧耕作土 (暗灰色砂質土)
3. 床土 (明黄褐色砂質土)
4. 明黄灰色砂質土 (土師器の板細片等を含む)
5. 明黄灰色粘質土 (土師器の板細片等を含む)
6. 黄灰褐色砂質土 (土師器の板細片等を含む、羽釜片)
7. 茶灰色砂質土 (遺物を全く含まない) 中世のベース
8. 茶褐色砂質土 (遺物を全く含まない)
9. 暗褐色砂礫土 (遺物を全く含まない) 溜水層



第 52 図 2001-09 地点断面図

6. 大園遺跡



第 53 図 大園遺跡 調査区位置図(1:10,000)

大園遺跡は高石市西取石、綾岡、和泉市葛の葉町、泉大津市綾井にまたがり、旧石器から中世にかけての遺物・遺構が検出する複合遺跡である。今年度は店舗建設に先立ち 1 件の確認調査を実施した。

2001-10地点

店舗建設部分の敷地内に東西方向と南北方向の2本のトレンチを設定し、東西方向を第1トレンチ、南北方向を第2トレンチとし、重機により掘削を行った。

第1トレンチ

基本層序は上層から盛土（基礎の攪乱も含む）、旧耕作土（暗灰色砂質土）、床土（暗茶色砂質土、黄褐色砂質土、包含層（暗茶褐色砂質土）、地山（黄灰色砂礫土、黄灰色粘土）である。

遺物は盛土中に須恵器長頸壺体片、2層旧耕作土から須恵器坏蓋体部片、5層包含層からは土師器破片等がそれぞれ出土している。トレンチの大部分が基礎による攪乱であり、6、7層地山も削り取られており、2層以下7層までは、トレンチの東端にわずかに残存するのみである。その残存部に遺構は検出されなかったが、既往の調査から6・7層中に旧石器が包含されている可能性があったため、旧石器グリッドを設定し、徐々に掘り下げたが、石器等の遺物の出土はなかった。

第2トレンチ

基本層序は1層～4層までは第1トレンチと同様であるが、5層包含層は第2トレンチでは存在せず、4層以下は地山となる。9層、10層については、有史以前の氾濫原もしくは、自然流路堆積と思われる。遺物遺構の検出はなかった。

第1・第2トレンチの観察から、遺構は第1トレンチ以東の部分に存在するものと思われる。その根拠としては7層地山が東へ向かって高まる傾向にあり、トレンチ東側に隣接する畑に須恵器、土師器等の破片が散見されることにある。第2トレンチについては攪乱はわずかしかなかったが、遺物・遺構の検出はなかった。出土遺物については破片のため図化し得るものはなかった。写真撮影・図面作成を行って調査を終了した。

（酒井）



第54図 2001-10地点第1トレンチ写真



第55図 2001-10地点第1トレンチ断面写真



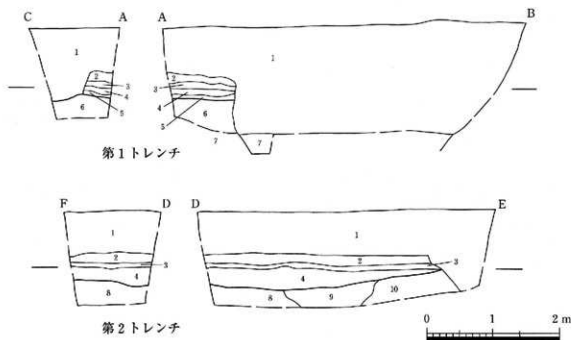
第56図 2001-10地点旧石器グリッド写真



第57図 2001-10地点第2トレンチ写真



第58図 2001-10地点第2トレンチ断面写真



層位名

1. 盛土 (コンクリートブロック基礎片レンガ等を大量に含む)
2. 旧耕作土 (暗灰色砂質土)
3. 床上 (暗灰茶色砂質土)
4. 黄褐色砂質土 (マンガンブロックをわずかに含む)
5. 暗茶褐色砂質土 (マンガンブロックをわずかに含む。ベース直上の遺物包含層)
6. 黄灰色砂礫土 (地山)
7. 黄灰色粘土 (地山)
8. 暗黄灰色砂礫土 (地山)
9. 暗黄灰色礫 (礫岩に砂・粘土を混える。地山)
10. 黄灰色粗砂 (地山)

第59図 2001-10地点第1・第2トレンチ断面図

発掘調査抄録 その1

ふりがな	いずみおつしまいぞうふんかぞいほくつちようさかいほう							
審 名	泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報							
副 書 名								
巻 次	20							
シリーズ名	泉大津市文化財調査報告							
シリーズ番号	34							
編 著 者 名	虎間 麻実 村出 文幸 酒井 祐介							
編 集 機 関	泉大津市教育委員会							
所 在 地	〒595-8686 大阪府泉大津市東雲町9番12号							
発行年月日	西暦 2002年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調 査 原 因
		市町村	道路番号					
池上曾根	大阪府泉大津市 森町2丁目227番地 93, 92の一部	272060		34度 30分 15秒	135度 25分 47秒	20010514	2.5	鉄骨造3階建個人住宅建設に伴う事前調査
	大阪府泉大津市 森町2丁目 228番地14	272060		34度 30分 15秒	135度 25分 51秒	20010525	2.2	木造2階建個人住宅建設に伴う事前調査
池 田 浦	大阪府泉大津市 下桑町 614-82	272060		34度 29分 50秒	135度 25分 18秒	20010418	5.5	鉄骨造3階建個人住宅建設に伴う事前調査
	大阪府泉大津市 森町366番地 1の一部	272060		34度 29分 52秒	135度 25分 12秒	20010518	3.87	鉄骨造3階建共同住宅建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 跡		主 な 遺 物		特 記 事 項	
池上曾根	集落	弥生	遺構は検出されなかった		遺物は検出されなかった			
		古墳	遺構は検出されなかった		須恵器 破片 瓦器 破片			
		奈良 平安	遺構は検出されなかった		須恵器 破片 瓦器 破片			
池 田 浦	集落	弥生	遺構は検出されなかった		遺物は検出されなかった			
		古墳	遺構は検出されなかった		遺物は検出されなかった			

発掘調査抄録 その2

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調 査 原 因
		市町村	遺跡番号					
池 浦	大阪府東大阪市 池浦町4丁目 232番7	272060		34度 29分 52秒	135度 25分 12秒	20010806	6.6	鉄骨3階建病院 建設に伴う事前 調査
	大阪府東大阪市 池浦町5丁目 207-1, 208-1	272060		34度 29分 52秒	135度 25分 12秒	20020110	12.2	鉄骨造5階建共 同住宅建設に伴 う事前調査
板 原	大阪府東大阪市 板原128-1	272060		34度 29分 7秒	135度 25分 8秒	20010511	9.6	鉄骨造4階建共 同住宅建設に伴 う事前調査
	大阪府東大阪市 穴田73-5	272060		34度 29分 7秒	135度 25分 8秒	20010927	3.2	鉄骨造1階建店 舗建設に伴う事 前調査
所収遺跡名	種別	主な 時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項			
池 浦	集 落	弥 生	遺構は検出されなかった	弥 生 土 器 破 片				
		古 墳	遺構は検出されなかった	弥生土器 破片 土 器 破 片 須恵埴 破片				
板 原	集 落	文 明	桑原素掘小溝とそれに 伴うピット	土 器 皿 破 片 須 恵 器 破 片 羽 釜 破 片 瓦 器 埴 破 片				
		中 世	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった				

発掘調査抄録 その3

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調 査 原 因
		市町村	遺跡番号					
ひら 取	大阪府泉大津市 宇多1048-72	272060		34度 29分 7秒	135度 25分 8秒	20010226	3.0	鉄骨造2階建個人住宅建設に伴う事前調査
	大阪府泉大津市 池瀬町2丁目 575-1, 573-1 の各一部	272060		34度 29分 21秒	135度 25分 9秒	20010509	26.4	木造2階建分譲住宅建設に伴う事前調査
し 東	大阪府泉大津市 尾町 167番1, 167番3	272060		34度 29分 56秒	135度 25分 0秒	20010528	2.8	木造1階建個人住宅建築に伴う事前調査
お 大	大阪府泉大津市麓井 50-1, 51-1 大阪府松原市花の貴町 243-3, 808-2	272060		34度 30分 27秒	135度 25分 38秒	20010611	14.4	鉄骨造1階建店舗建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な 時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項			
ひら 取	集落	弥生	遺構は検出されなかった	遺構は検出されなかった				
		古墳	中世の井戸溝 柱穴 近世の井戸	弥生土器破片、石鏃、 須恵器破片、土師器破片、 羽釜、瓦質土器、瓦器塊				
し 東	集落	古墳 中世	遺構は検出されなかった	土師器 瓦器塊 羽釜	破片 破片 破片			
お 大	包舎地 集	旧石器 古墳 中世	遺構は検出されなかった	土師器 須恵器	破片 破片			

泉大津市文化財調査報告34

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報20

2002年3月

発行	泉大津市教育委員会
編集	生涯学習課 泉大津市東雲町9番12号
印刷	和泉市池上町460番地の33 和泉出版印刷株式会社

